

文科省採用の 靖国DVD

侵略戦争を正当化する靖国史観で子どもたちを“洗脳”

DVD「誇り」は日本青年会議所が地方青年会議所との「協働運動」として進めている「近現代史教育プログラム」の教材です。同プログラムでは学校の総合学習などで中学生にこのDVDを見せたあと、会議所のメンバーがコーディネーターになって詳しい説明を加えながら討論。子どもたちから「日本を守るためには戦争をするしかなかったのではないか」「日本が自分の国を守るために戦争したなんて初めて知りました」などの感想を引き出しています。

この内容には、当の青年会議所の関係者からも疑問の声が出ています。同会議所のホームページで内容を知った地方青年会議所の関係者は「子どもたちを洗脳するようなもので、ひどいと思った。やめるべきだと思う」と語っています。



靖国神社で2人が語り合う内容の日本青年会議所作製のDVD「誇り」

羽村民報

2007年6月17日 852
発行 羽村民報編集委員会
責任者 野崎 衷

日本共産党市議団 教育長に申し入れ

日本共産党羽村市議団は6月8日、角野教育長に日本青年会議所制作アニメ「誇り」を教育現場に持ち込ませないよう文書(右)で、申し入れました。

教育長はこのDVDについては「知らなかった。調査してみる」と答えました。

日本共産党羽村市議団のホームページ
<http://www.jcphamura.org>
事務所 電話 579-2132 FAX 579-2106

日本青年会議所制作アニメ『誇り』を教育現場に持ち込ませないよう求める申し入れ

羽村市教育長 角野征大様

2007年6月8日

日本共産党羽村市議団

日本青年会議所が作成したアニメーション(DVD)「誇り」が、文部科学省の研究委託事業「新教育システム開発プログラム」に採用され、このDVDを教材とした教育事業が今年2月から6月にかけて全国96箇所で開催され、問題となっています。

このアニメでは過去から来た青年が現代の女子高生を靖国神社に誘い、日本の戦争が「自衛のための戦争」だったと語り、日本人の戦争への反省は「GHQによる洗脳」の結果と説明しています。植民地支配については「道路を整備し学校を設置した」と加害の事実には触れず、「アジアの人々を白人から解放」する「大東亜戦争」だったとしています。

日本は、日独伊三国による侵略戦争を過ちとして認め、二度と戦争はしないと誓って国際社会への復帰を実現しました。戦後50年の村山談話は、「植民地支配と侵略」により、アジア諸国に「多大の損害と苦痛」を与えたことへの「痛切な反省」を表明しています。また、1982年の官房長官談話は、「日本の政府は、過去の日本とアジアの問題について、学校教育でどう取り組むかの基準を持っている」と述べ過去の戦争への反省に立ち、学校教育にあたってその精神を尊重するとしています。

日本青年会議所作成のDVDは、このような国際社会と日本の根本原則に反するものであり、このDVDを使った教育プログラムを普及することや学校教育で使用することはあってはならないことと考えます。伊吹文科相も国会の審議で「私が校長なら使わない」と答弁しています。

この立場に立って、以下の点を要望します。

記

- 一、羽村市教育委員会は日本青年会議所作成アニメ『誇り』を使った教育事業が市内において行われているかどうか実態調査を行うこと。
- 二、いかなる場合においてもこのDVDが使用されることのないよう各学校、関係教育機関に徹底すること。
- 三、同趣旨の講演会などについて市として後援・協賛・協力等しないこと。
- 四、文部科学省に対し、同教育プログラムを委託事業から外すよう求めること。